

# 「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果概要について

富山市教育委員会

## I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## II 実施状況

- 1 実施期日 平成29年4月18日（火）
- 2 調査内容 教科に関する調査（国語、算数・数学）  
質問紙調査（児童生徒、学校）
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
65校1分校	3,427人	26校1分校	3,458人

## III 教科に関する結果の概況

### 1 教科区分別平均正答率

	小学校6年					中学校3年				
	国語A	国語B	算数A	算数B	合計	国語A	国語B	数学A	数学B	合計
富山市	79	62	84	49	274	80	76	68	51	275
富山県	78	60	82	47	267	80	75	68	50	273
全国	75	58	79	46	258	77	72	65	48	262

（A：主として「知識」に関する問題、B：主として「活用」に関する問題）

### 2 結果の概要

- ・ 平成19年度の本調査実施以降、教科区分別の本市の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
- ・ 小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語Aは4ポイント、国語Bは4ポイント、算数Aは5ポイント、算数Bは3ポイント上回っている。
- ・ 中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語Aは3ポイント、国語Bは4ポイント、数学Aは3ポイント、数学Bは3ポイント上回っている。
- ・ 平均正答率を県と比較すると、小学校ではすべての教科で上回り、中学校では国語A、数学Aが同等で、国語B、数学Bが上回っている。
- ・ 平均正答率の合計は、小学校、中学校ともに、全国及び県を上回っている。

全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較 (H19~H29)

- ・H19、20、21、25、26、27、28、29：対象学年全員参加方式で実施。
- ・H22、24：抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
- ・H23：未実施。

【小学校6年生】

	国語 A										国語 B									
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62
市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4
市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2
富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60
県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2
全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58

	算数 A										算数 B									
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49
市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3
市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2
富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47
県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1
全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46

【中学校3年生】

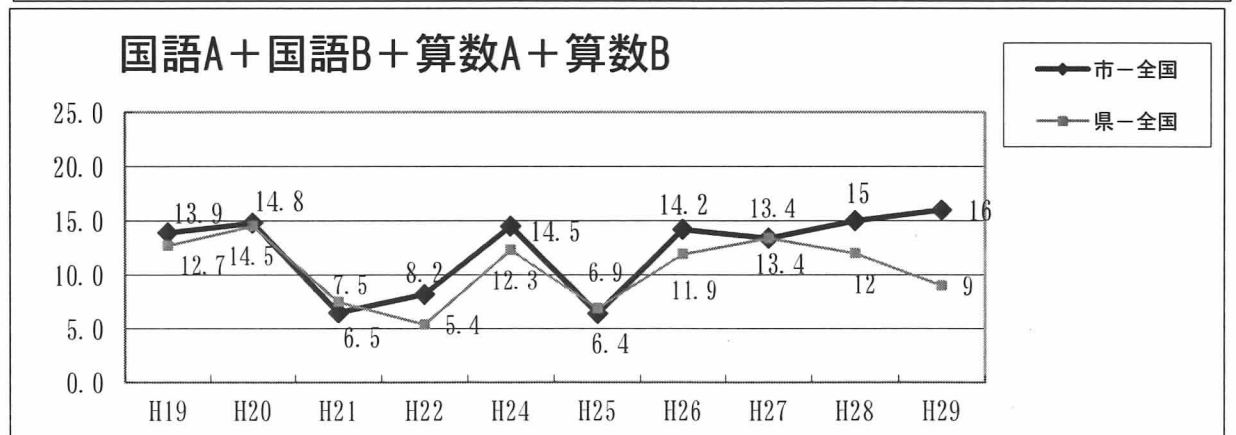
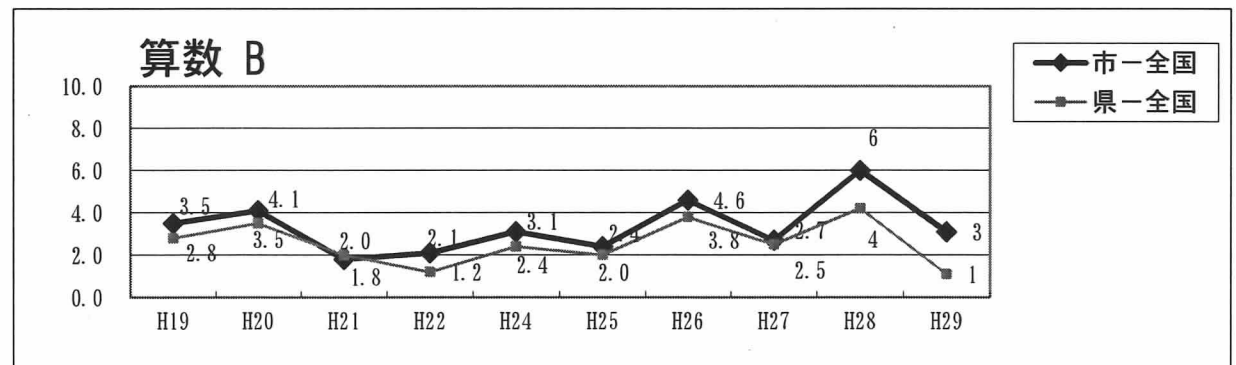
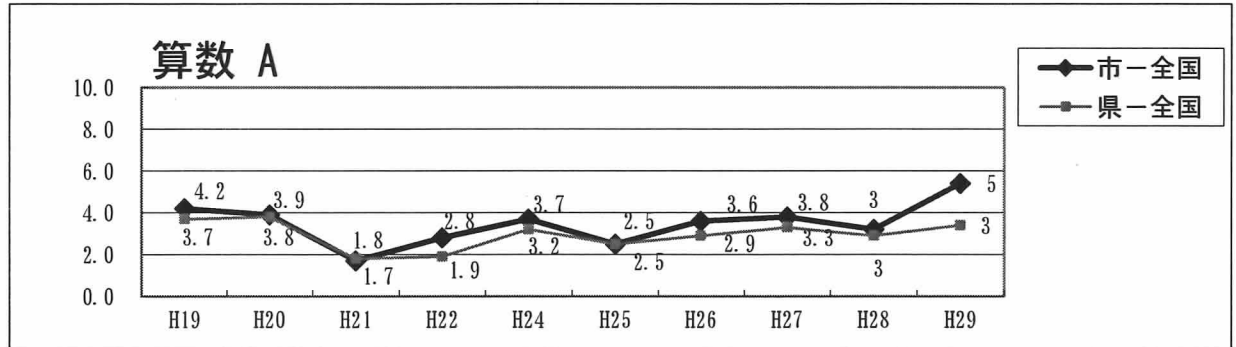
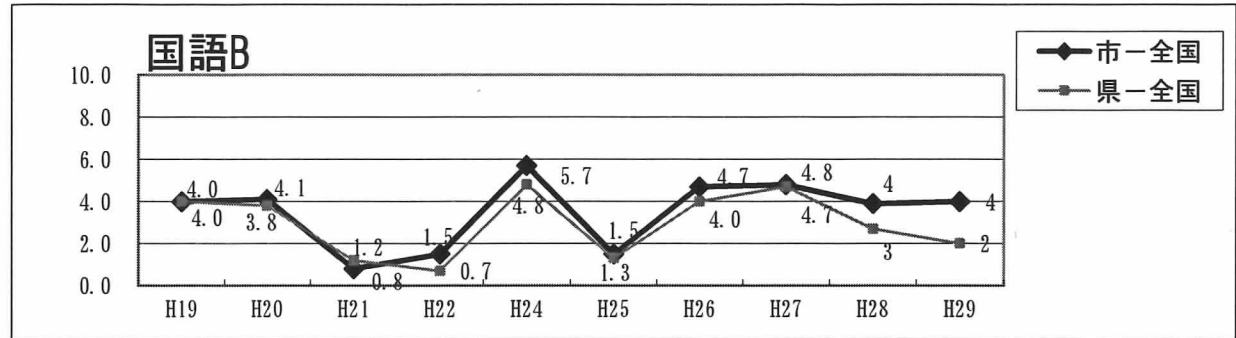
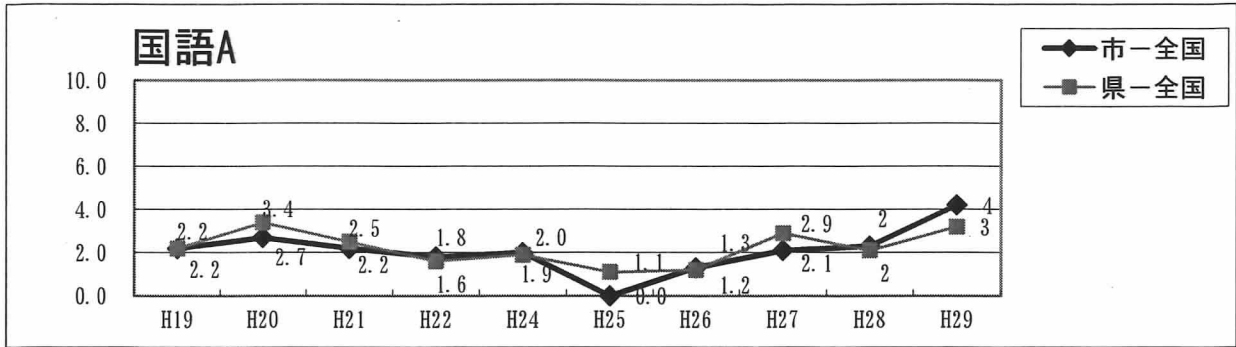
	国語 A										国語 B									
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76
市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4
市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1
富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75
県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3
全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72

	数学 A										数学 B									
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51
市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3
市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1
富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50
県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2
全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48

※ 平成28年度より、整数値で公表

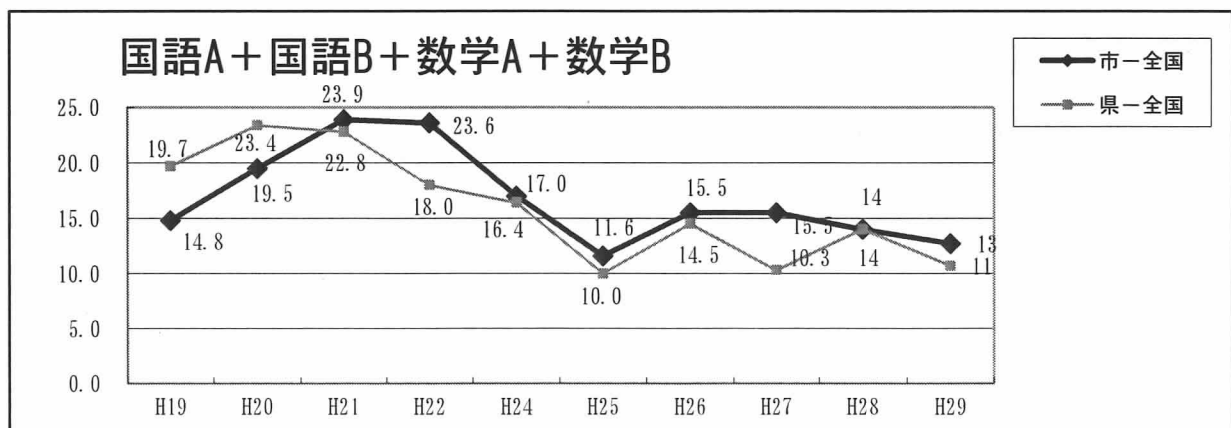
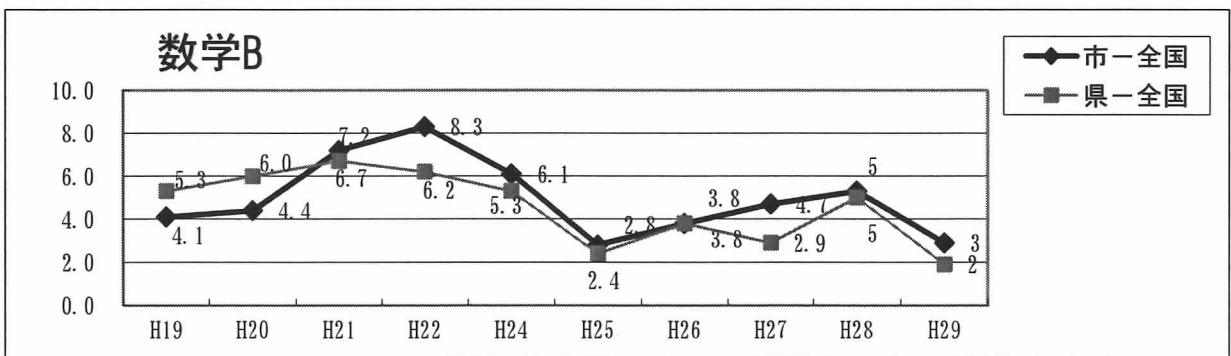
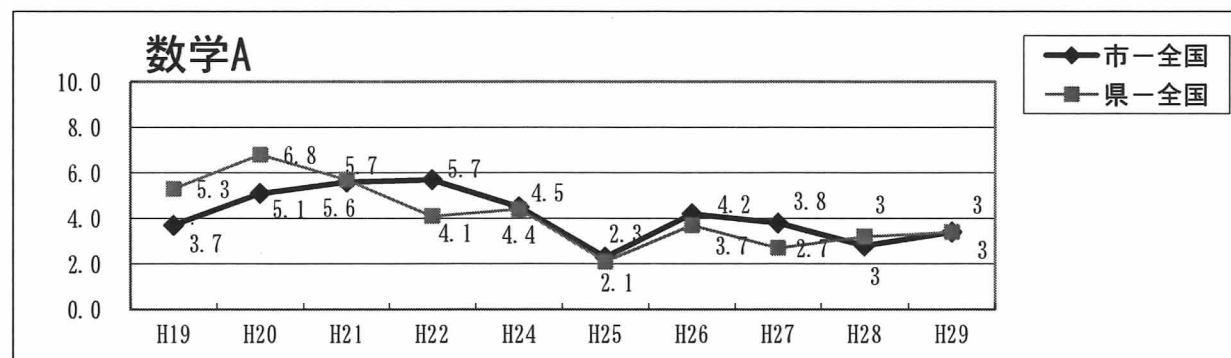
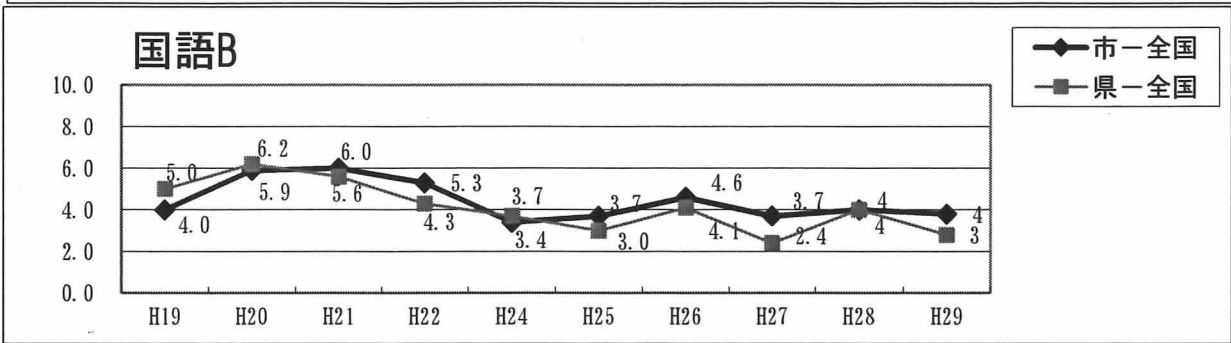
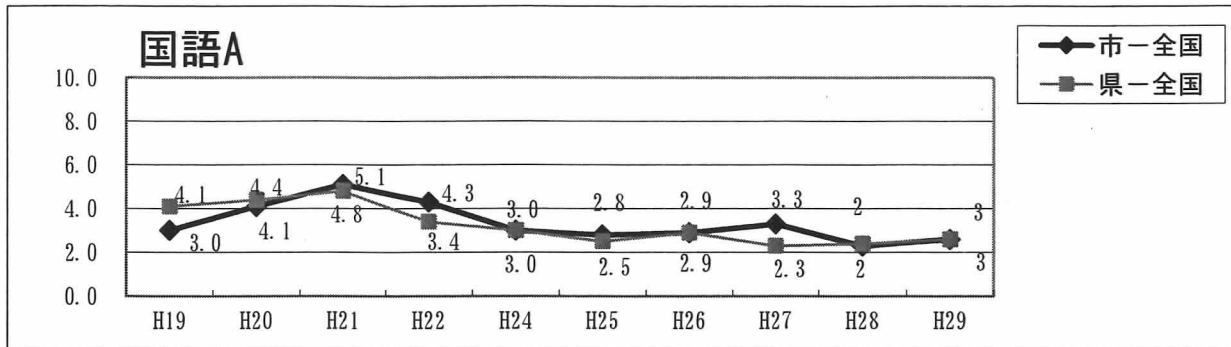
# 【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差（％）



# 【中学校 3 年生】

※全国の平均正答率との差 (%)



<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、国語A・Bともに4ポイント高い。また、国語A、国語Bともに、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。</p> <p>● 「伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項」において、県平均を下回っている問題がある。</p> <p>学習した漢字等を繰り返し練習することに加え、ことわざの由来や漢字の成り立ちにふれるような学習活動を行うことで、より確かな理解につなげる。また、書く活動場面において、漢字等を確実に習得し適切に活用することができるように計画的に指導することが大切である。</p>
<p>A：主として 「知識」</p>	<p>○ 領域「話すこと・聞くこと」の平均正答率が全国よりも6ポイント高い。問題形式別では、選択式は4ポイント、短答式は5.1ポイント上回っている。</p> <p>○ 目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題の平均正答率は、全国よりも6.7ポイント高い。今後も、中心となる語・文をとらえることや段落相互の関係の理解、筆者の主張を読み取る学習活動を行うことが大切である。その際、文章を読む目的を明確にして学習を進めることが求められる。(問題3)</p> <p>● 手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題が見られる。署名と宛名の位置関係を知識として教えることにとどまらず、位置関係には、謙遜や相手への敬意の意味があることを指導することで、手紙の形式がもつ意味についての確かな理解につながる。また、実際に書く機会を増やすことも大切である。(問題2二)</p>
<p>B：主として 「活用」</p>	<p>○ 領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」の平均正答率は、全国と比べて、それぞれ4.6ポイント、4.5ポイント高い。目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す(条件に合わせて書く)問題では、全国と比べて5.4ポイント高い。(問題1三)</p> <p>● 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図をとらえる問題では、正答率が32.3%と低い。話し合い活動において、ただ相手の話を聞くだけではなく、友達の考えの根拠を聞き出したり、自分の理解が正しいかを相手に確かめたりすることによって、自他の考えが明確になる。普段、教師が行っている問いかけを子ども同士でも行えるように指導していくことで、グループやペア活動が円滑に行われ、自分の考えを広げ、深めることができると考える。(問題3二)</p>

【話し合いの様子の一部】

3 火野さんの手紙では、あまみんこさんが書いた「まつねの写真」という題名の物語を読み、それが考えたことについて、文章中の表現を示しながら話し合っています。次は、「物語の一部」として話し合いの様子です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

■物語のこれまでのあらすじ  
(火野山に、松ぞうじいさんと、水二子が住んでいました。水二子は、山で遊ぶのが大好きで、松ぞうじいさんと一緒に遊んでいました。)

松山 あまみんこさんの「まつねの写真」を読んで、心に残ったところはどこかな。  
(3)を示しながら「あつねの水がいつせいにささってゆれてきました」というところまで、  
A 感じがすると思っただけだ。  
大岩 A こといえば、松ぞうじいさんと水二子はまつねだ。  
田中 二人を呼ぶたはずの写真にまつねが写っていたんから、まつねだ。  
原 A 二人を呼ぶたはずのまつねが写っていたんから、まつねだ。  
田中 (4)を示しながら「山野さんは、むかいあつねをまつねだ」とあるでしょ。  
松山 そうだね。それに、(5)を示しながら「まつねの写真を」と書いてあるよ。  
原 二人を呼ぶたはずの写真をまつねが写っているってことは、やっぱりまつねなのかな。  
大岩 まつねだよ。他にまつねが写っているところはあるかな。  
田中 (2)と(3)で、松ぞうじいさんが「いつせいにささってゆれてきました」と書いてあるから、  
まつねだ。ここからまつね、まつねが写っているんだけだ、どうかな。  
原 私もそう思う。松ぞうじいさんは、まつねが写っているんだけだ、まつねの場所を知っているよ。  
田中 業でまつねだよね。田中さんの言いたいことは、まつねが写っているところがあるから、まつねだ。  
松山 (1)を示しながら「ここにもあるよ。」「人間にうつられたら」と書いてあるけれど、  
まつねだ。松ぞうじいさんが本館に人間なら、「人間に」とか「まつねだ」とは言わねえよ。  
田中 松ぞうじいさんがまつねだと思えるね。他にも見つけたよ。  
A (話し合いが続く) B

二 【話し合いの様子の一部】の「A」「B」の発言は、この話し合いの中で、それぞれのどのような意図がありますか。最も適切なものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 考えのもととなる文章中の表現を明らかにしようとしている。

2 言葉の意味が理解できず、その意味を知ろうとしている。

3 今まで出ていない考えを引き出そうとしている。

4 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめようとしている。

## 小学校算数

<p><b>結果の概要</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国と平均正答率を比較すると、算数Aは5ポイント、算数Bは3ポイント高い。また、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。</li> <li>● 算数Bの「記述式」の問題形式では、平均正答率が34.3%と低い傾向にある。普段の学習から、式や図、表等を用いて筋道立てて考えたり、他者に説明したりする活動を充実させていくことが大切である。</li> </ul>
<p><b>A:主として「知識」</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「数と計算」領域では、平均正答率が85.9%と高い。特に、数量関係を数直線上に表す問題や四則混合計算の問題の正答率が全国と比べると高い。計算技能や問題場面を適切にとらえる力が定着している。 <b>(問題1(2)、問題2(3))</b></li> <li>● 「数量関係」領域の二次元表についての問題では、資料を基に数値を求める問題の平均正答率が70.0%、無解答率は算数Aの問題の中で最も高い3.1%である。各項目の意味を説明したり、求めた数値の妥当性を確かめたりする活動を取り入れていくことが大切である。 <b>(問題9(2))</b></li> <li>● 「量と測定」領域では、平均正答率が他領域に比べて10ポイント以上低い。任意単位による測定について理解や、向きや形に関係なく図形の性質をとらえる力が不十分であると推察される。既習の方法を用いて比較・測定したり、操作活動を通して図形相互の関係を調べたりする活動の充実が望まれる。 <b>(問題4、5)</b></li> </ul>
<p><b>B:主として「活用」</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 示された条件を基に適切な式を立てる問題、数量関係のきまりを記述する問題の平均正答率が全国より5ポイント以上高い。具体例を調べて数量の関係を見いだす力、見いだした事柄を一般化して表現する力が高まっている。 <b>(問題1(1)(3))</b></li> <li>● 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題の正答率が13.6%で、すべての問題の中で最も低い。数量の大小を意識して図に関係を表すことや、思考の過程を表現する活動を積み重ねることが大切である。 <b>(問題5(2))</b></li> <li>● 仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題は、平均正答率が27.7%で、無解答率が10.1%となっている。工夫して計算することで合理的、能率的に処理できる日常場面を取り上げるなど、算数の有用性を実感できる活動を充実させることが大切である。 <b>(問題3(2))</b></li> </ul>

家でイスやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、下のように記録しました。

出席番号	イス	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×


		ネコ		合計
		○	×	
イス	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

○:飼っている  
×:飼っていない

(1) 左の出席番号1番の人は上の表の ア から エ までの中のどこに入りますが、1つ選んで、その記号を書きましょう。

(2) 上の表の オ にあてはまる数を書きましょう。

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。  
1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

1円玉	100円玉	500円玉
 20mm	 22.6mm	 26.5mm

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最大の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。  
また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

1 100円玉  
2 500円玉

(●A 問題9(2) 正答率70.0% 無解答率 3.1%) (●B 問題5(2) 正答率13.6% 無解答率6.5%)

中学校国語

<p>結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国と平均正答率を比較すると、国語Aは3ポイント、国語Bは4ポイント高く、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。</li> <li>● 国語Bでは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する問題の正答率が45.1%と低い。身につけた言語についての知識を活用できるような学習の場を工夫することが必要である。</li> </ul>
<p>A：主として 「知識」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の構成を工夫して分かりやすく書く問題の平均正答率が全国より4.9ポイント高い。今後も、相手への意識や目的意識をもち、読み手に伝わりやすい文章を構成する工夫について考える学習活動を充実させたい。(問題5一)</li> <li>● 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字を書く問題の正答率は全国を上回っているが、漢字を読む問題の正答率は、3問中2問で全国を下回っている。(問題9一ニ)</li> <li>● 古典の種類を答える問題の平均正答率が全国より5.6ポイント低い。古典の学習では、登場人物や作者の思い・考えを想像できる場を設定したり、関連する本や文章等を紹介したりして、生徒が古典に親しめる指導の工夫が大切である。(問題9七2)</li> </ul>
<p>B：主として 「活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要な情報を集めるための見直しをもつ問題の正答率が全国より6.1ポイント高い。今後も、雑誌や新聞の利用、インタビューやアンケートの実施等といった様々な情報収集方法の中から適切なものを選択・活用できるような指導を継続していきたい。(問題3三)</li> <li>● 記述式の問題の無解答率が高い傾向にある。表現の仕方についてとらえ、自分の考えを書く問題の無解答率は12.3%であった。自分の考えを書く際には、根拠を明確にして書くことが大切である。文章を読んで心に残った言葉や文、感想等を書き留め、それらを基にしてペアやグループで考えを交流するなど、根拠を明確にしながらか自分の考えを表現する学習活動の工夫が大切である。(問題1三)</li> </ul>

2 「徒然草」の作品の種類として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

4 和歌  
3 物語  
2 漢文  
1 随筆

【本の紹介カード】

① 青山さんは、学校図書で図書委員の生徒が作った「本の紹介カード」を見て、感動したことを考えたことなどを、青山さんが見た「本の紹介カード」と、青山さんが読んだ「本の一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

自分らしさって何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい三姉妹。でも、麻子(私)は、自由奔放な妹の七葉との違いをいつも感じています。そのような中で少しずつ自分らしさを見付けていく麻子の成長の物語です。

スコレ No.4 宮下 奈都

② 比喩を用いた表現も素敵です!

③ 青山さんは、「本の紹介カード」にある「比喩を用いた表現」に着目して「本の一部」を読み、感じたことを考えたことなどをあとの【読書の記録】に書いています。あなたなら【読書の記録】の「心に残った一文」と「感想」にどのようなことを書きましますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を再読したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 (心に残った一文)は、「本の一部」から、比喩を用いた表現が含まれる一文を選び出して書くこと。


条件2 (感想)は、条件1で取り上げた表現について、「例(例)」の「どの」を「麻子のかまを明確にした上で、あなたが感じたこと」や考えたことを具体的に書くこと。

(●A 問題9七2 正答率72.9% 無解答率0.9%) (●B 設問1三 正答率45.1% 無解答率12.3%)

中学校数学

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、数学A・Bともに3ポイント高い。また、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。</p> <p>● 数学Bにおいて問題形式による平均正答率を全国と比較すると、選択式、短答式の問題の平均正答率がやや高いのに対して、記述式がほぼ同じである。具体的な事象を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。</p>
<p>A：主として 「知識」</p>	<p>○ 「資料の活用」領域の平均正答率が全国と比べて6.6ポイント高い。特に、与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求める問題の平均正答率は全国より16.4ポイント高い。(問題3(2)、問題14(2))</p> <p>● 見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取る問題の平均正答率が全国より5.8ポイント低い。見取図の特徴を空間図形と対応させながら実感を伴って理解できるような活動を充実させる必要がある。(問題5(3))</p> <p>● 「…は…の関数である」という形で表現する問題の平均正答率は22.7%で、数学Aの問題の中で最も低い。数学用語を適切に使えるようにするとともに、事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を充実していく必要がある。(問題9)</p>
<p>B：主として 「活用」</p>	<p>○ 「関数」領域の平均正答率が全国と比べて4.5ポイント高い。特に、数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理する問題の平均正答率は、全国より7.4ポイント高い。今後も、用いた式を事象に即してとらえ直す活動を充実させたい。(設問3(3))</p> <p>● 2つの図形の関係について、どのような回転移動になるかを説明する問題の平均正答率が13.6%と低い。また、資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由について説明する問題の平均正答率も14.2%と低い。授業では、数学用語を適切に用いながら、根拠を明らかにして考察する場面を設定して説明したり、問題解決の過程を振り返って考えたりする活動を充実させることが大切である。(設問1(2)、設問5(3))</p>

(3) 康平さんは調べたことをきっかけに、水を大切にしようと思いました。そこで、家でできる節水の方法を調べて表にまとめ、それをもとに毎日の取り組みを決めました。



節水の方法	節水量
シャワーを流しっぱなしにしている時間を、短くする。	1分あたり12L
両唇きで、口をゆすぐときに、水を流しっぱなしにせずに、コップに水をためる。	1回あたり5L

康平さんの取り組み

- シャワーを流しっぱなしにしている時間を、3分間から5分間くらい短くする。
- 1日2回の両唇きで、2回ともコップに水をためる。

シャワーを流しっぱなしにしている時間を $a$ 分間短くしたときの、1日あたりの節水量を $b$ Lとすると、康平さんの取り組みによる1日あたりの節水量は、次の式で表すことができます。

$$b = 12a + 5 \times 2$$

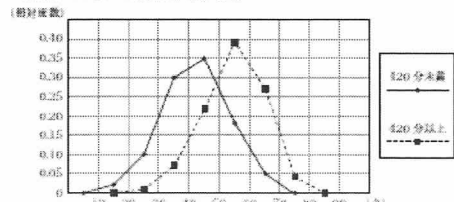
康平さんの取り組みを行うとしたら、1日あたりの節水量がどのくらいになるかを、上の式をもとに考えます。 $a$ の変域を $3 \leq a \leq 5$ とすると、 $b$ の変域を求めなさい。

(○B 設問3(3) 正答率50.6% 無解答率13.3%)

(3) 若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

階級(点)	420分未満		420分以上	
	度数(人)	相対度数	度数(人)	相対度数
10～20	1	0.02	0	0.00
20～30	6	0.10	1	0.01
30～40	18	0.30	6	0.07
40～50	21	0.35	19	0.22
50～60	11	0.18	33	0.39
60～70	3	0.05	23	0.27
70～80	0	0.00	3	0.04
合計	60	1.00	85	1.00

若菜さんが作った度数分布多角形



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、若菜さんが作った度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

(●B 設問5(3) 正答率14.2% 無解答率24.7%)



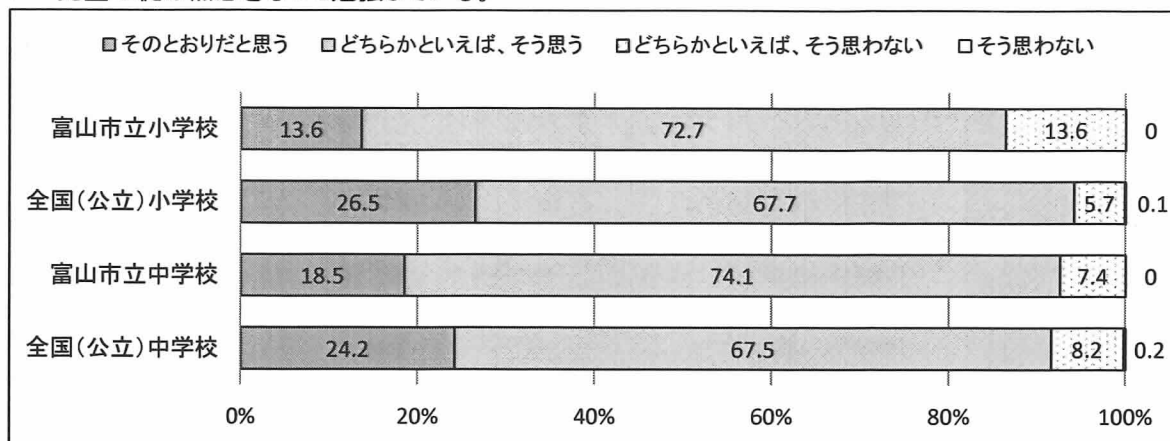
学校質問紙調査

(★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

※ その他・無回答は、データに含んでいない。

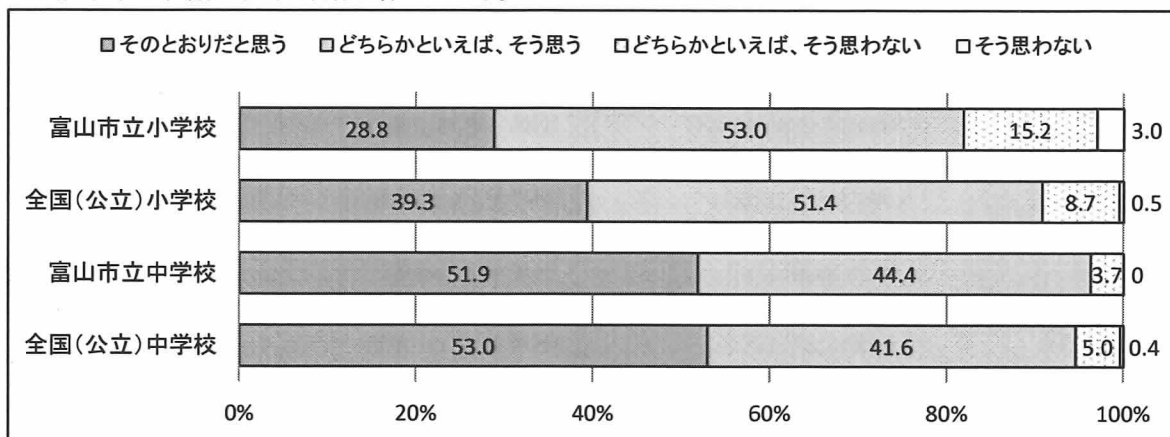
【児童・生徒】

1 児童生徒は熱意をもって勉強している。



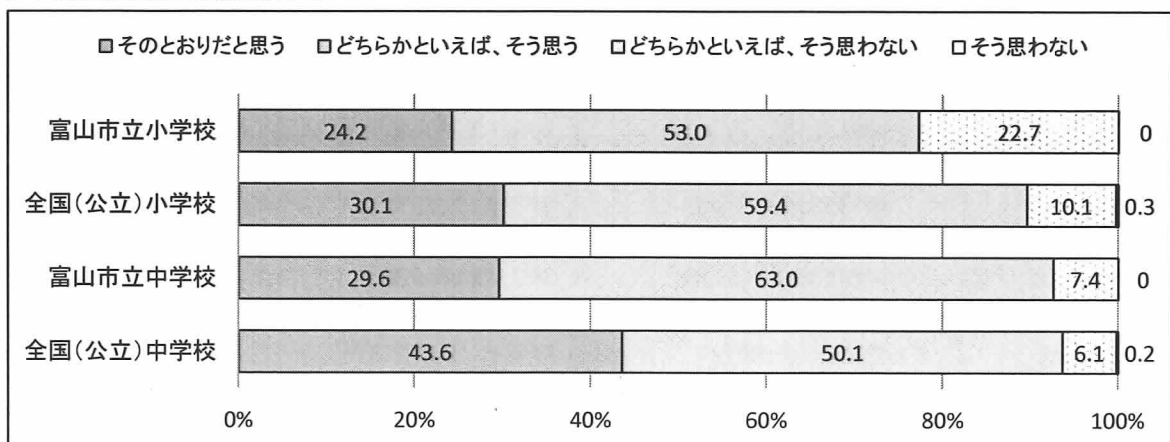
※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

2 授業中の私語が少なく、落ち着いている。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

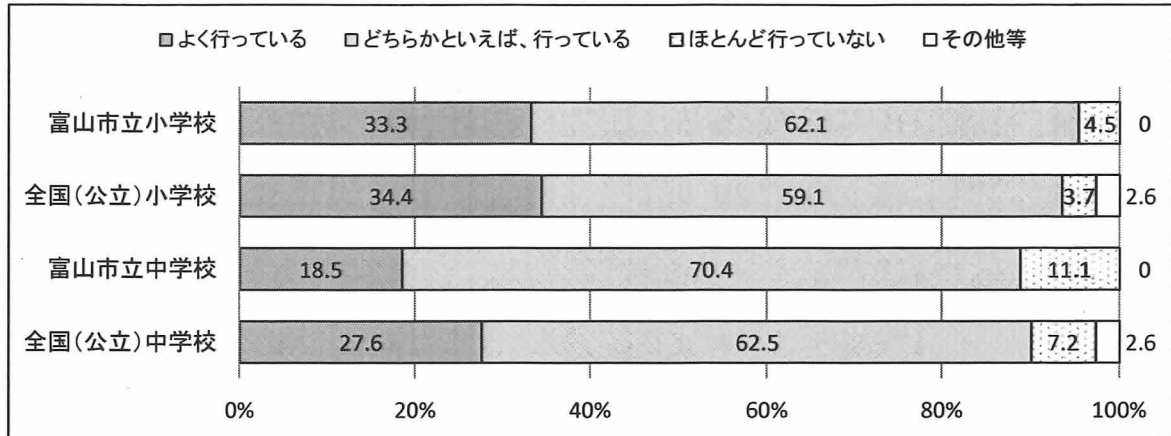
3 児童生徒は礼儀正しい。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

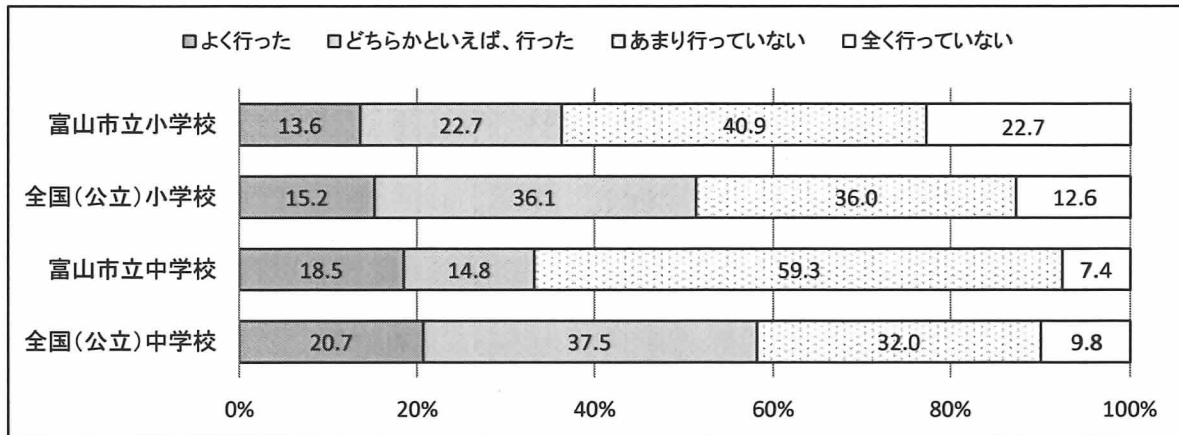
【学力向上に向けた取り組み】

4 全国学力・学習状況調査の結果を市学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。



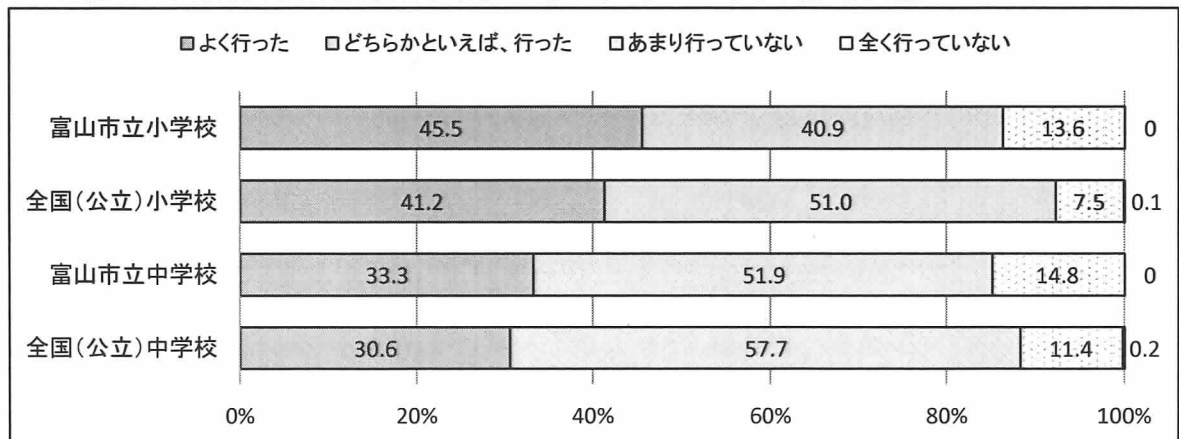
※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともほぼ同じである。

5 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った。



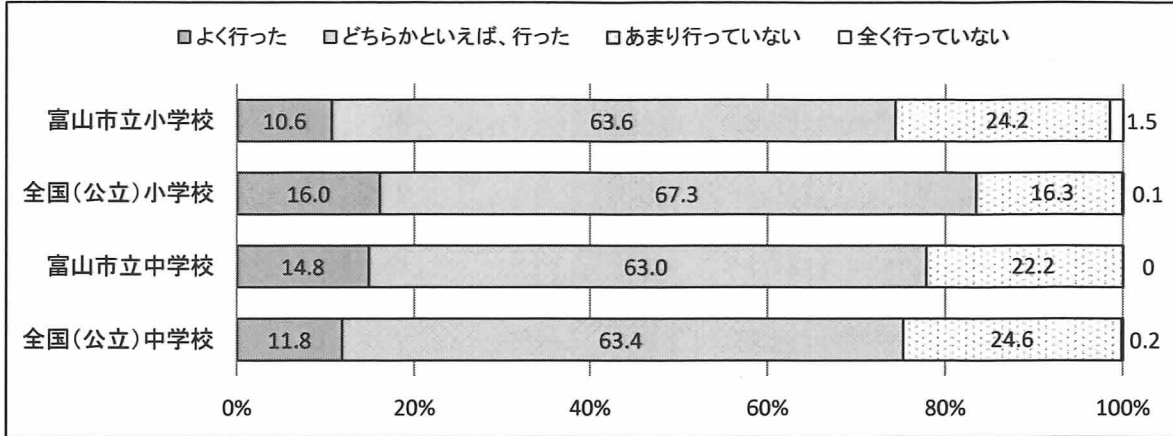
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともかなり低い。

6 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした。(国・算・数共通)



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はやや低い。

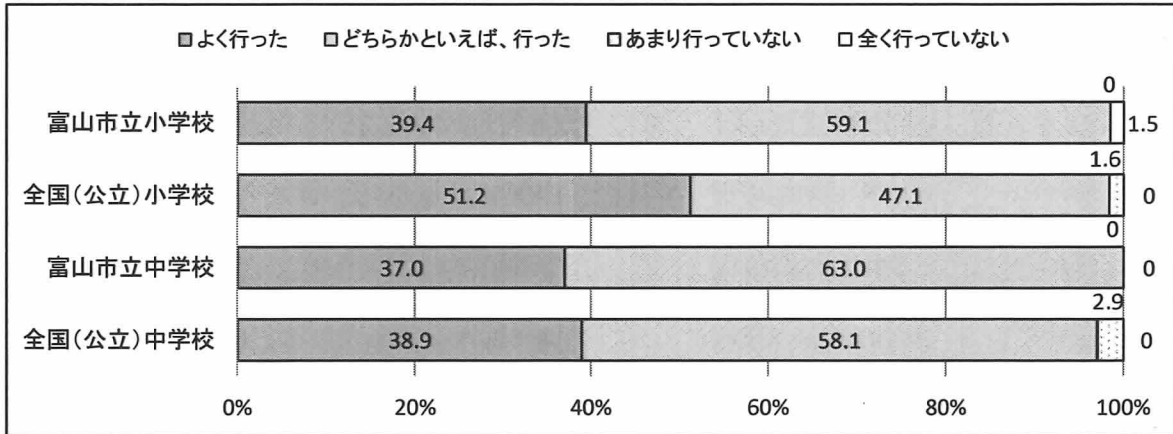
7 ★ 各教科等で身につけたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はやや高い。

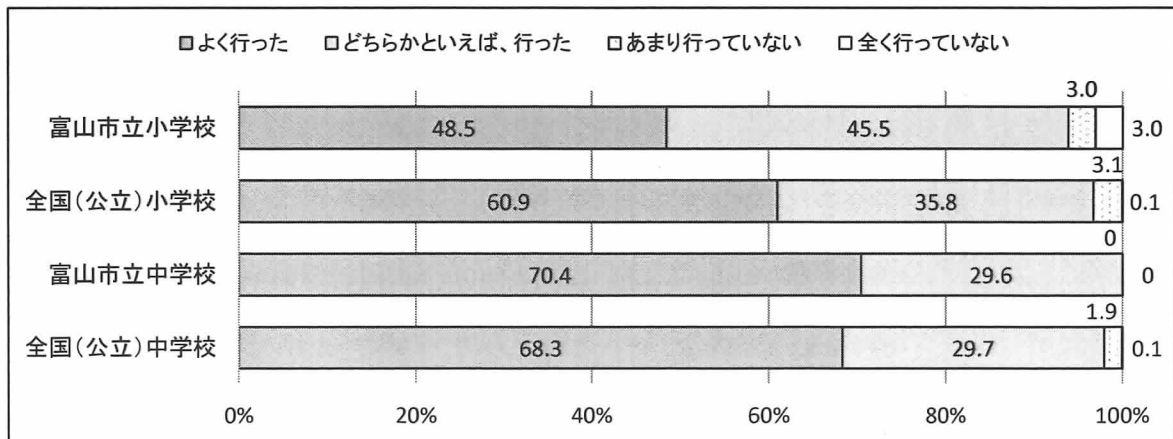
【指導方法・学習規律】

8 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた。



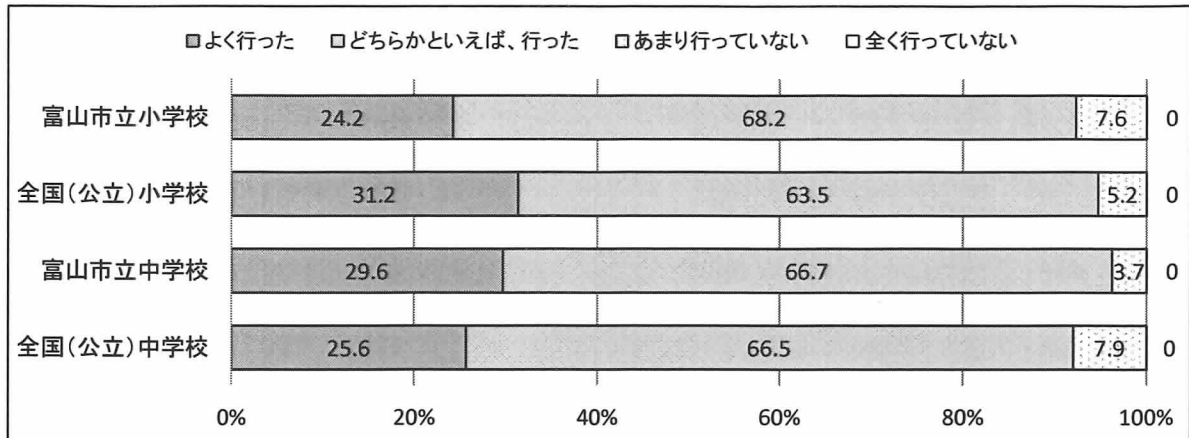
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

9 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した。



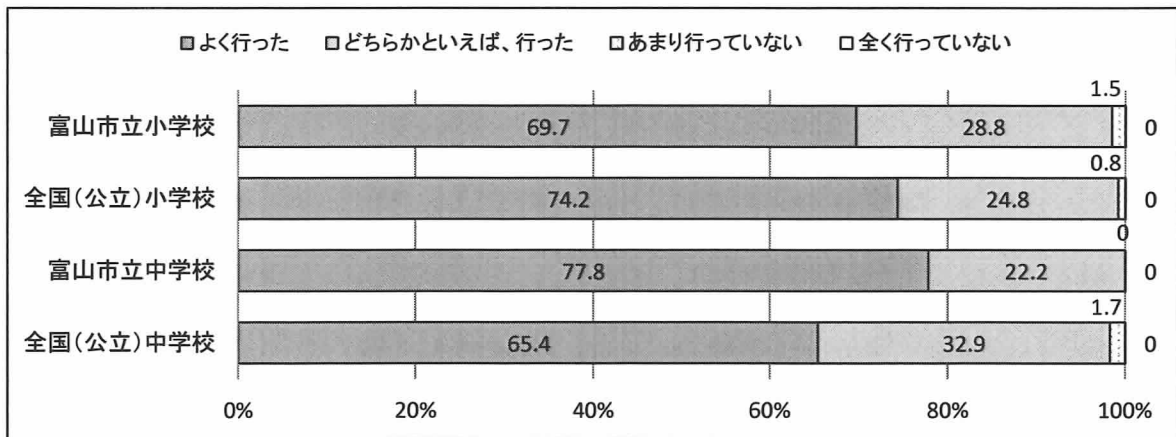
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はほぼ同じである。

10 児童生徒に対して、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした。



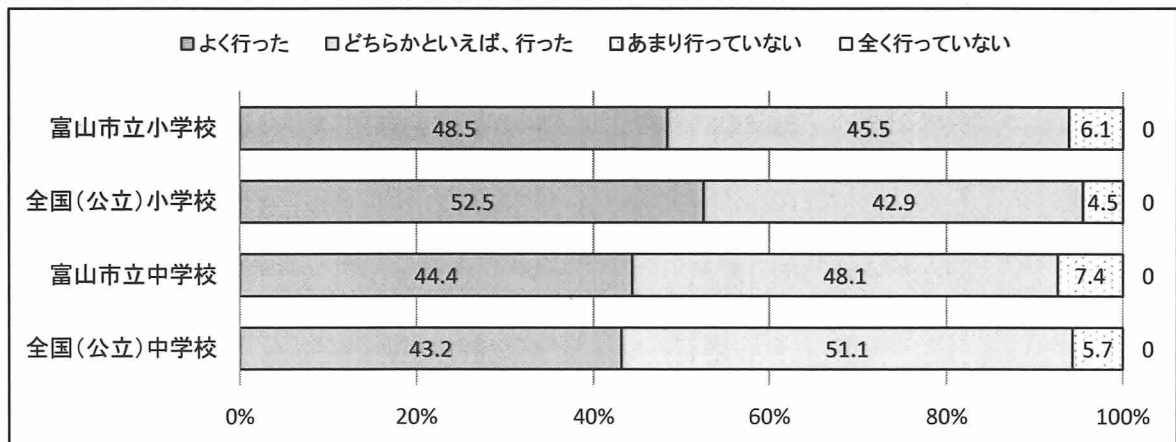
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

11 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れた。



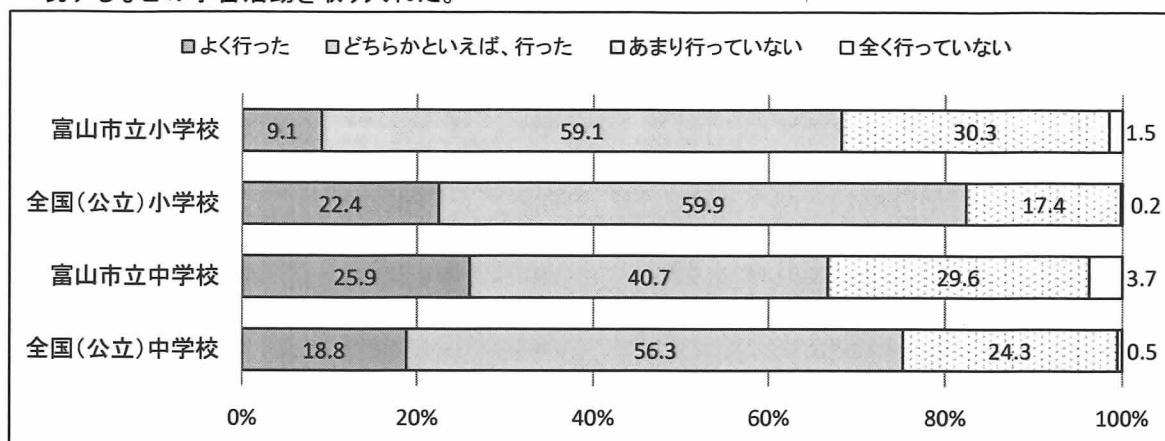
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

12 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。



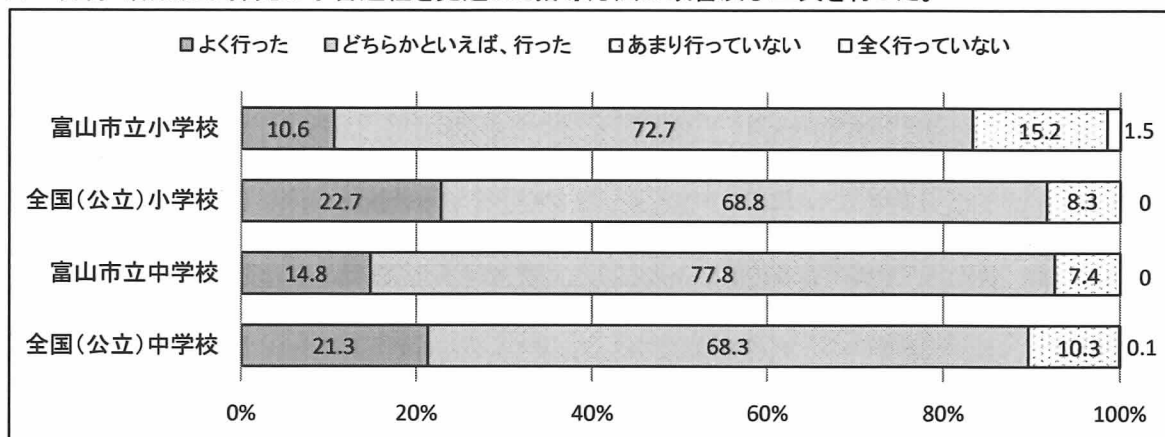
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

13 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた。



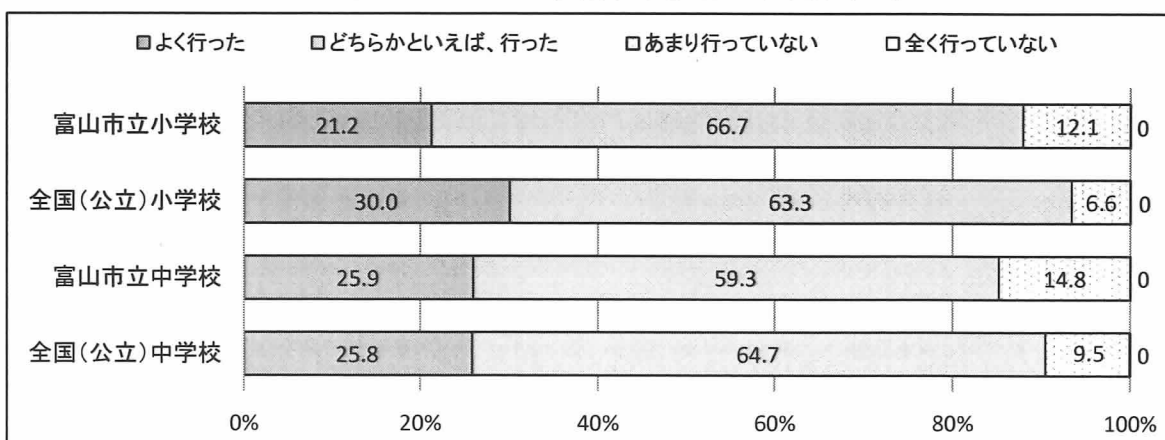
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

14 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はやや高い。

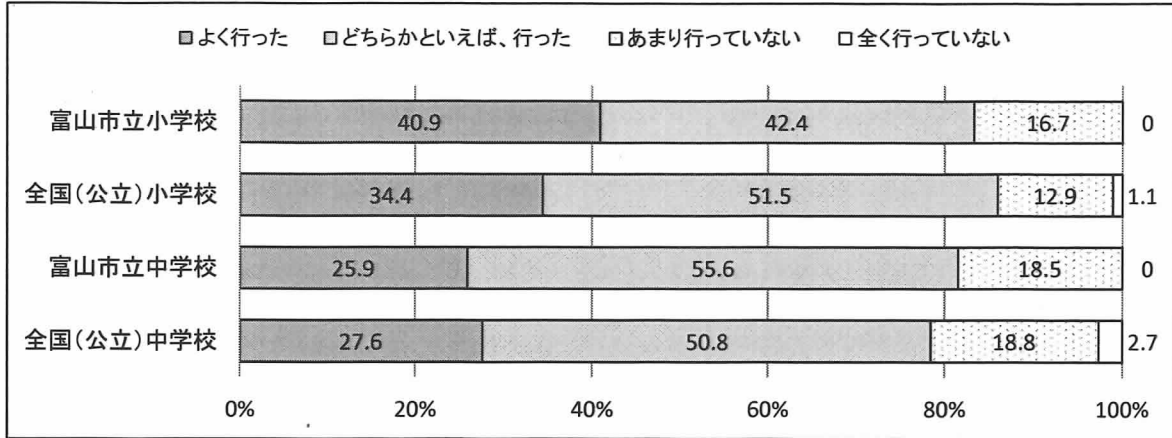
15 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともに低い。

【地域の人材・施設の活用】

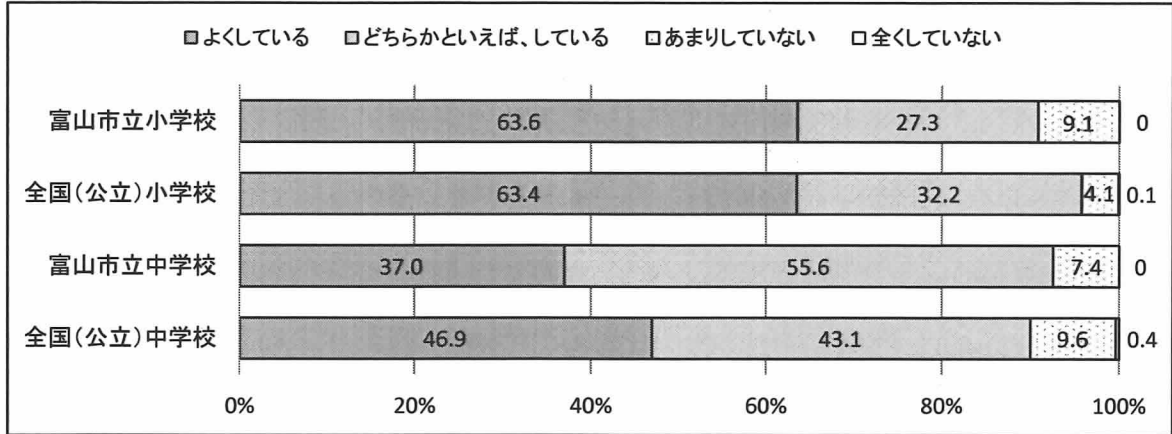
16 ★ 授業や課外学習で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はやや高い。

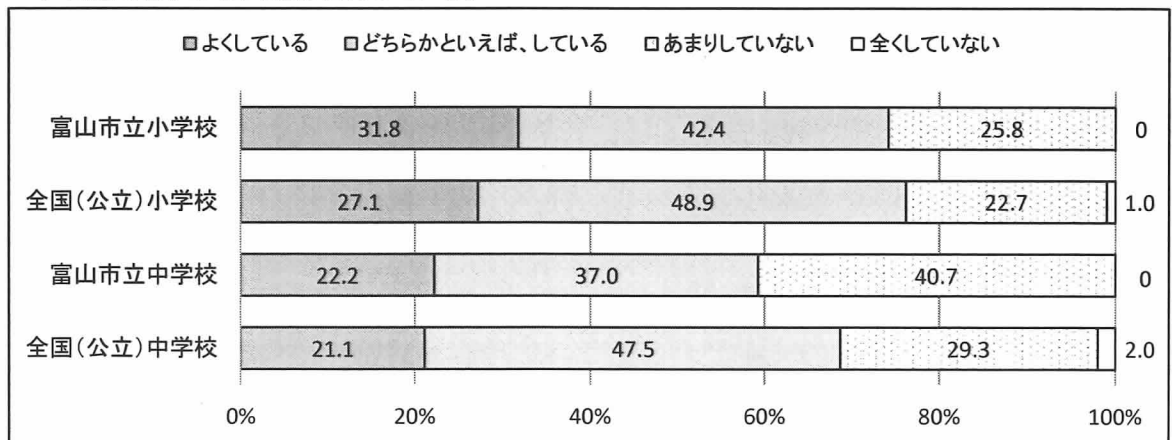
【教員研修】

17 模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はやや高い。

18 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

学校質問紙調査の結果から 肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」、または「よく行った」「どちらかといえば、行った」をあわせたもの

児童・生徒 全国比：平成29年度本市と全国を比較したもの H28比：本市平成29年度と平成28年度を比較したもの ○は今年度より調査項目になった質問

	質 問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考 察
1	児童生徒は熱意をもって勉強している	小	86.3%	-7.9	-4.6	2,3 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うか」に肯定的に答えた小学校は全国や昨年と比べても低くなっている。また、「児童は礼儀正しい」と回答している小学校の割合は、全国と比べるとかなり低い。小学校において、児童への簡潔な指示や、集中して活動に取り組めるような学習展開の工夫と環境整備に努める必要がある。
		中	92.6%	+0.9	±0	
2	授業中の私語が少なく、落ち着いている	小	81.8%	-8.9	-7.6	
		中	96.3%	+1.7	+11.2	
3	児童生徒は礼儀正しい	小	77.2%	-12.3	-1.6	
		中	92.6%	-1.1	+7.4	

### 学力向上に向けた取り組み

	質 問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考 察
4	各種調査等の結果を分析し、具体的な教育指導の改善を行った	小	95.4%	+1.9	-3.1	5 中学校の「小中連携」について、肯定的な回答をした学校の割合が、全国と比べるとかなり低い結果となっている。今後も、小中連携を中心とした確かな学力の育成に関する研究を進めるモデル校の実践等を参考にしつつ、9年間を見通した一貫性のある指導を進めていく必要がある。 6 「家庭での学習方法等」について、肯定的な回答は小学校は全国と比べると低く、中学校はやや低い。小学校の割合は、昨年度から低下しており、家庭学習の具体的な方法を示すなど、全校体制で指導の改善に努めていくことが重要である。 7 「各教科等で身に付けたことの活用の機会」について、肯定的に回答した学校の割合は小学校で高く、中学校でやや高い結果となっている。活用する力を高めるためにも、今後も、継続して設けることが大切である。
		中	88.9%	-1.2	+3.7	
5	近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	36.3%	-15.0	+2.9	
		中	33.3%	-24.9	±0	
6	家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら教えた	小	86.4%	-5.8	-9.1	
		中	85.2%	-3.1	±0	
◎ 7	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことが出来るような機会を設けた	小	74.2%	+9.1	—	
		中	77.8%	+2.6	—	

### 指導方法・学習規律

	質 問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考 察
8	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた	小	98.5%	+0.2	±0	9 「学習規律の維持を徹底している」と回答した小学校の割合は全国と比べるとやや低い。中学校の割合は全国とほぼ同じであるが、前年と比べるとかなり高い結果となっている。各小学校で「学習のきまり」等を見直し、全教職員共通の指導内容を決め、児童の特性に応じた指導を繰り返していく必要がある。
		中	100%	+3.0	+7.4	
9	学習規律の維持を徹底していた	小	94.0%	-2.7	-1.5	
		中	100%	+2.0	+11.1	

10	自分で調べたことや、考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	小	92.4%	-2.3	-1.5	12 ほとんどの学校が「自分で調べたことや、考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている」と回答している。今後も、ノートに課題やまとめを書く活動の習慣化を図り、児童生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習の成果を実感することができるようにしていくことが大切である。 13 「課題設定、話し合い、まとめ、表現する学習活動を取り入れている」と回答した学校の割合は、昨年度と比べると小学校ではかなり低く、中学校ではやや低い結果となっている。児童生徒が自ら課題を設定し、その解決のために主体的に取り組むことができるような授業展開を工夫していく必要である。 14 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った」と回答した学校の割合が、昨年度と比べると、小学校でかなり低く、中学校でやや低い結果となっている。日ごろから、指導方法の改善及び工夫を意識していくことが必要である。
		中	96.3%	+4.2	+3.7	
11	授業の中で目標を示す活動を取り入れた	小	98.5%	-0.5	±0	
		中	100%	+1.7	+3.7	
12	授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れた	小	94.0%	-1.4	-1.4	
		中	92.5%	-1.8	-0.1	
13	課題設定、話し合い、まとめ、表現する学習活動を取り入れた	小	68.2%	-14.1	-13.7	
		中	66.6%	-8.5	-3.8	
14	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った	小	83.3%	-8.2	-12.1	
		中	92.6%	+3.0	-3.0	
15	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた	小	87.9%	-5.4	-4.5	
		中	85.2%	-5.3	-3.7	

### 地域の人材・施設の活用

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考 察
◎ 16	授業や課外学習で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した	小	83.3%	-2.6	—	16 地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定について、肯定的に回答した小学校の割合が、全国と比べるとやや低く、中学校で低い結果になっている。地域住民、社会人講師等地域人材の活用等を含め、児童生徒の実態やニーズに応える、計画的、かつ柔軟に学習過程を工夫していく必要である。
		中	81.5%	-6.5	—	

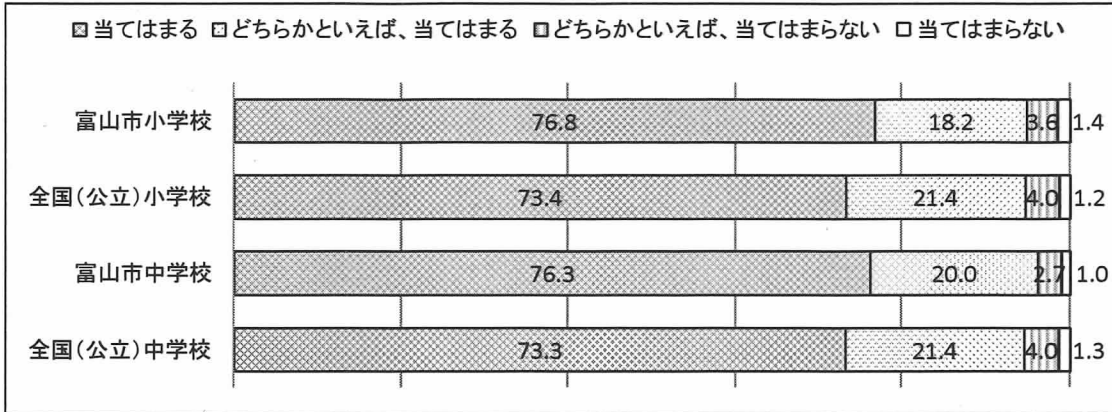
### 教員研修

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考 察
17	模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている	小	90.9%	-4.7	-3.0	17 「実践的な研修を行っている」と回答した小学校の割合は、全国、前年度と比べるとともにやや低い結果となっている。各校で、授業技術等、指導力の向上を目指した実践的な研修を行っていく必要がある。
		中	92.6%	+2.6	+14.9	
18	児童生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	小	74.2%	-1.8	-1.6	18 「自ら課題を設定し、解決する学習活動を学ぶ研修を行った」と回答した中学校の割合は、全国と比べるとやや低い結果となっている。今後、小中学校とも、新学習指導要領改訂の趣旨を理解し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいく必要がある。
		中	59.2%	-9.4	-3.8	



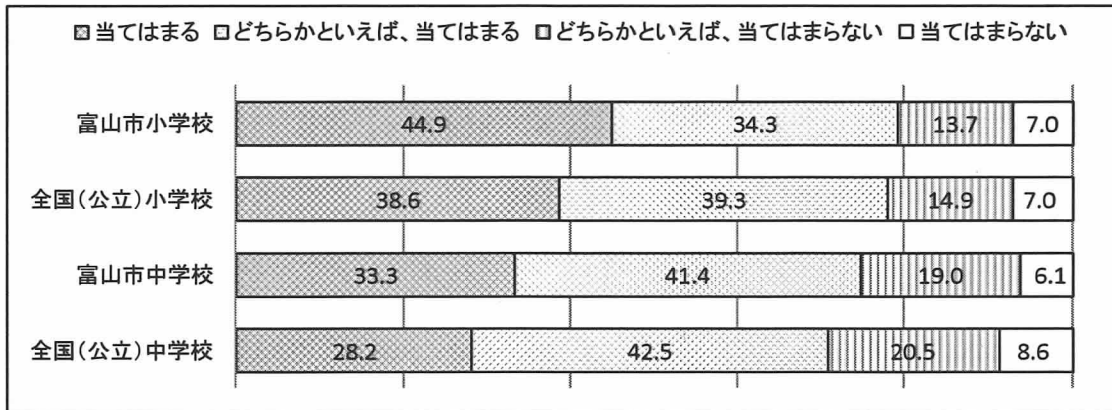
児童生徒質問調査 (★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)  
【自尊心】

1 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



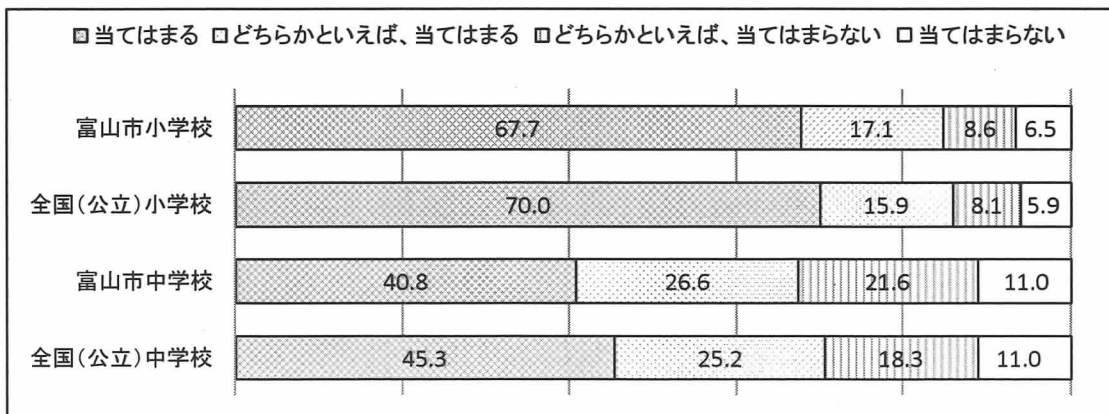
※ 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「どちらかといえば、ある」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

2 自分には、よいところがあると思いますか。



※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」小学校児童の割合は全国とほぼ同じであり、中学校生徒の割合ははやや高い。

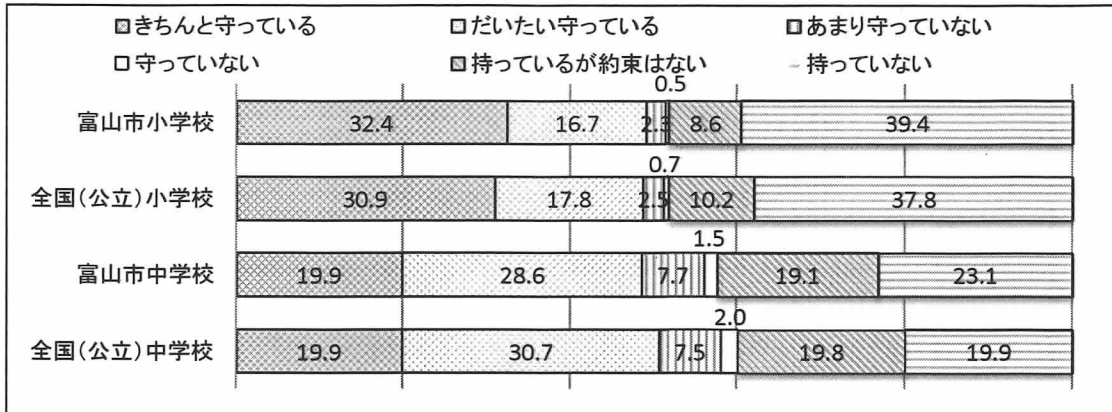
3 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」小学校児童の割合は全国とほぼ同じであるが、中学校生徒の割合はやや低い。

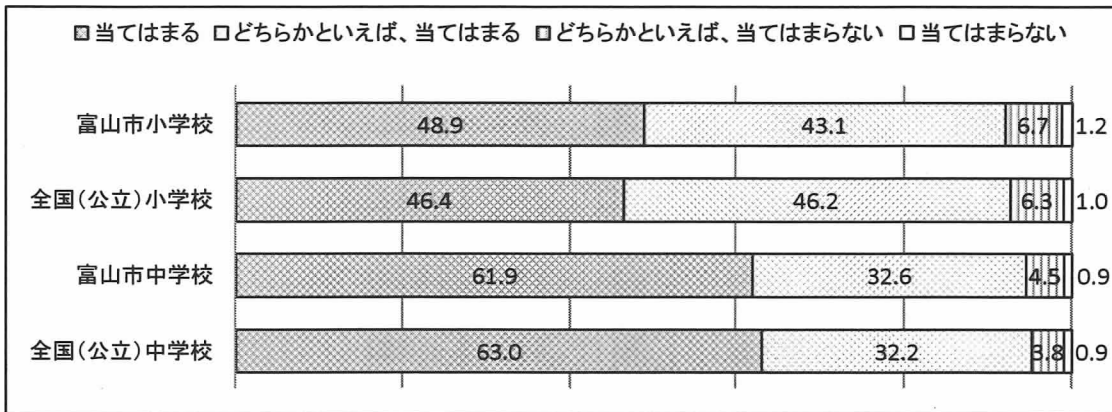
【規範意識】

4 ★携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



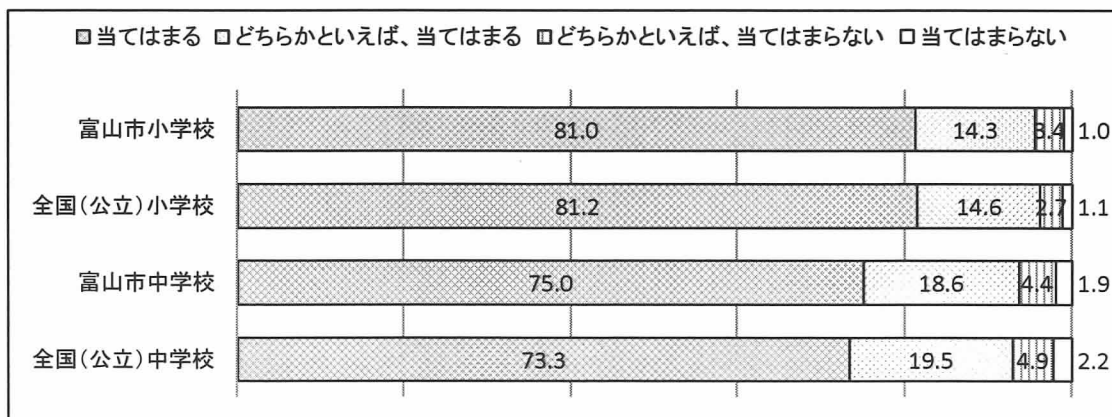
※ 「きちんと守っている」「だいたい守っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

5 学校のきまり(規則)を守っていますか。



※ 「学校のきまり(規則)を守っている」「どちらかといえば、守っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

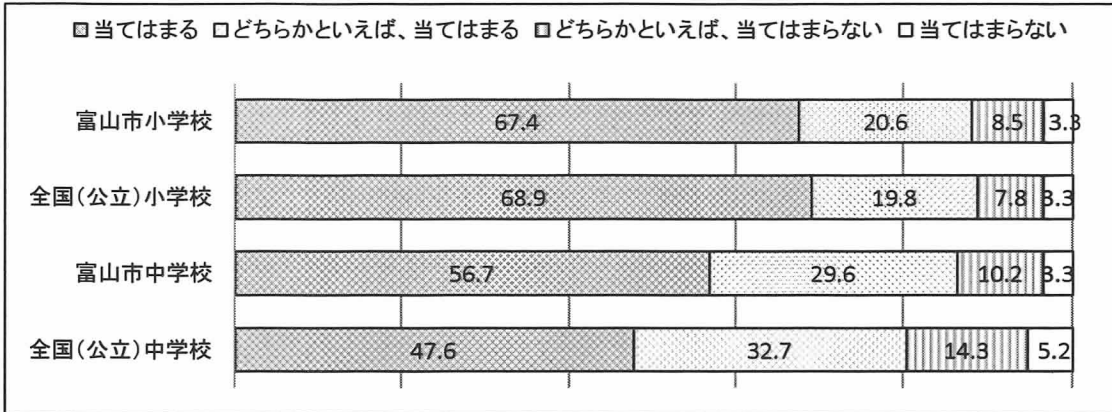
6 ★いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



※ 「いじめはいけないことだと思う」「どちらかといえば思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

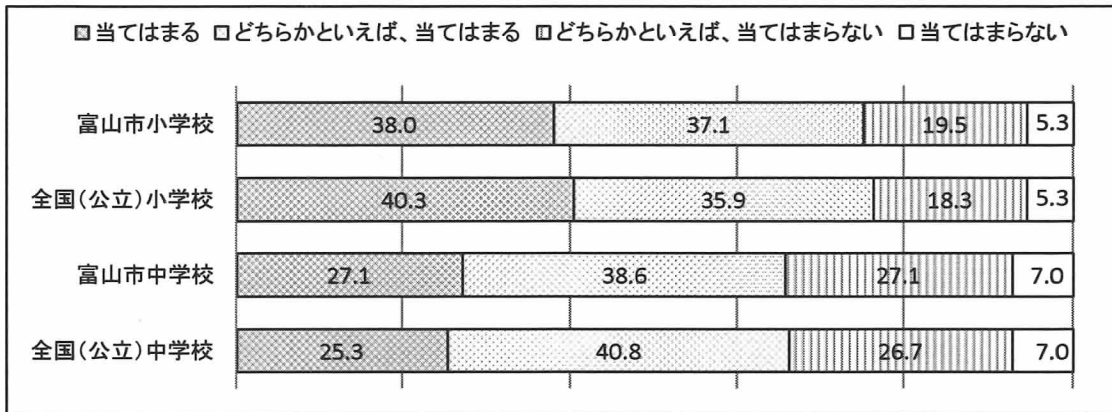
【授業での活動】

7 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。



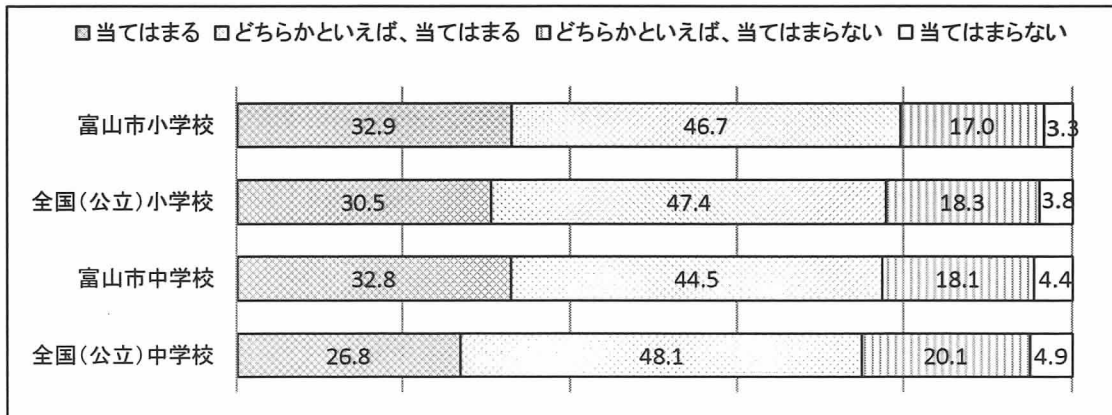
※ 「ノートに目標とまとめを書いていたと思う」「どちらかといえば、書いていたと思う」小学校児童の割合は、全国とほぼ同じで、中学校生徒の割合は高い。

8 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



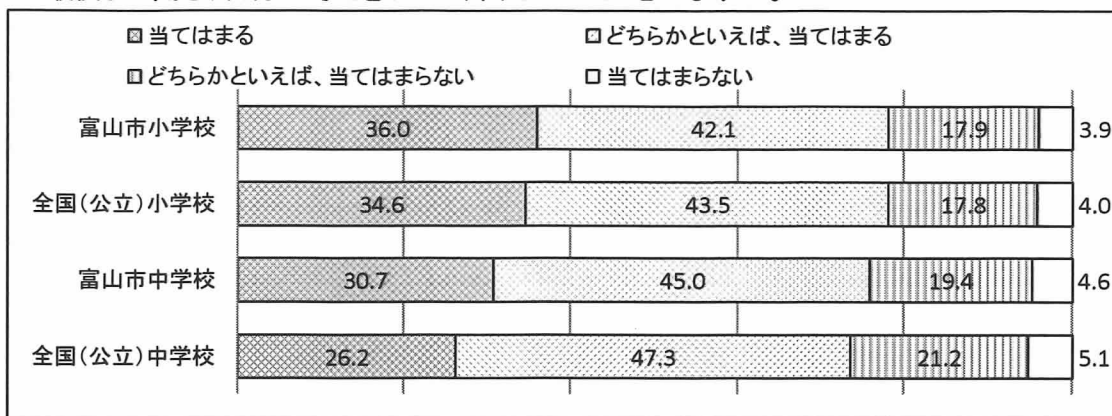
※ 「学習内容を振り返る活動を行っていたと思う」「どちらかといえば、行っていたと思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

9 授業では、先生から指示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。



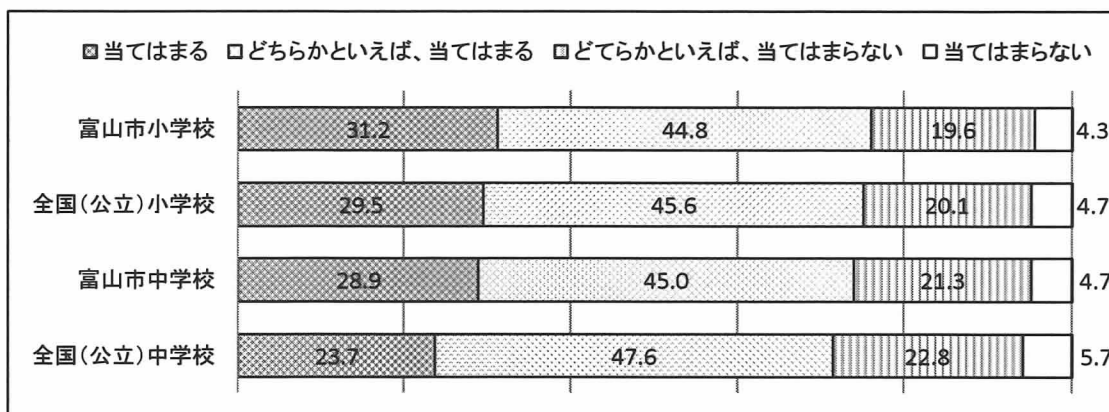
※ 「自ら考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、取り組んでいたと思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

10 授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。



※ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

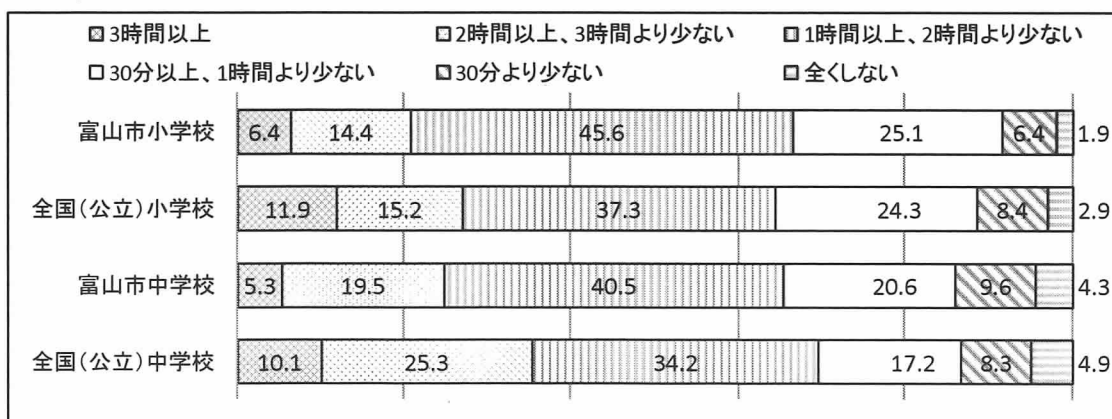
11 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。



※ 「自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」小学校児童の割合は全国とほぼ同じであり、中学校生徒の割合はやや高い。

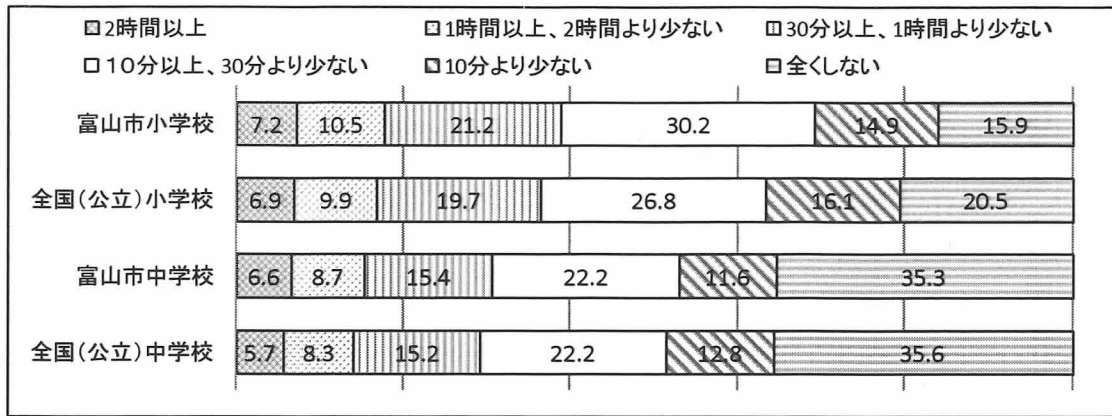
### 【家庭学習】

12 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1時間以上勉強している」小学校児童の割合は全国とほぼ同じで、中学校生徒の割合はやや低い。

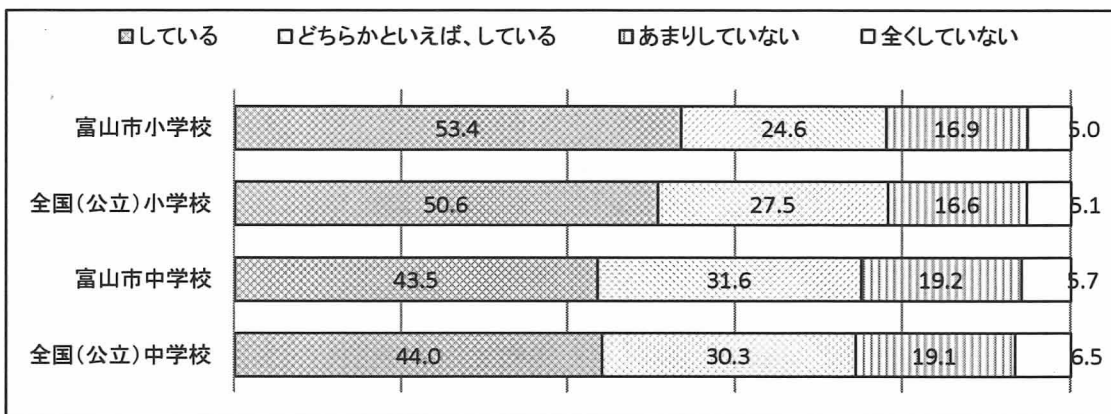
13 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」小学校児童の割合は全国よりやや高く、中学校生徒はほぼ同じである。

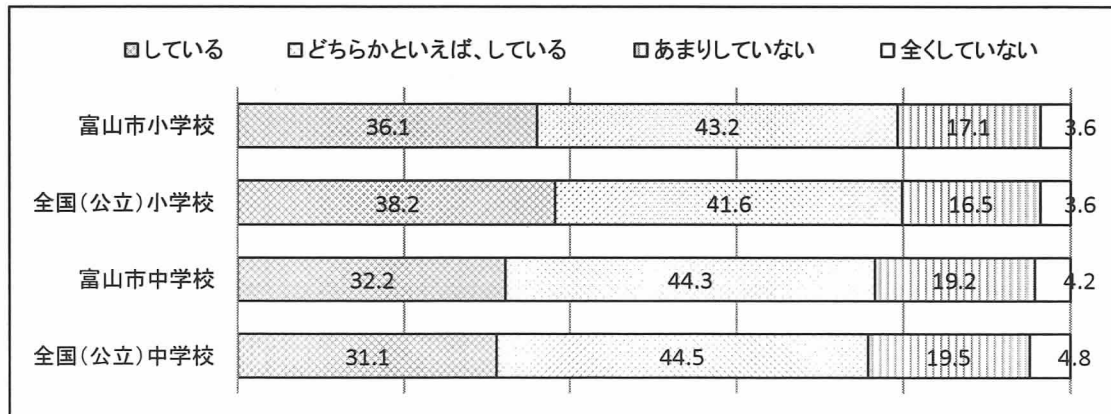
【家庭での生活】

14 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



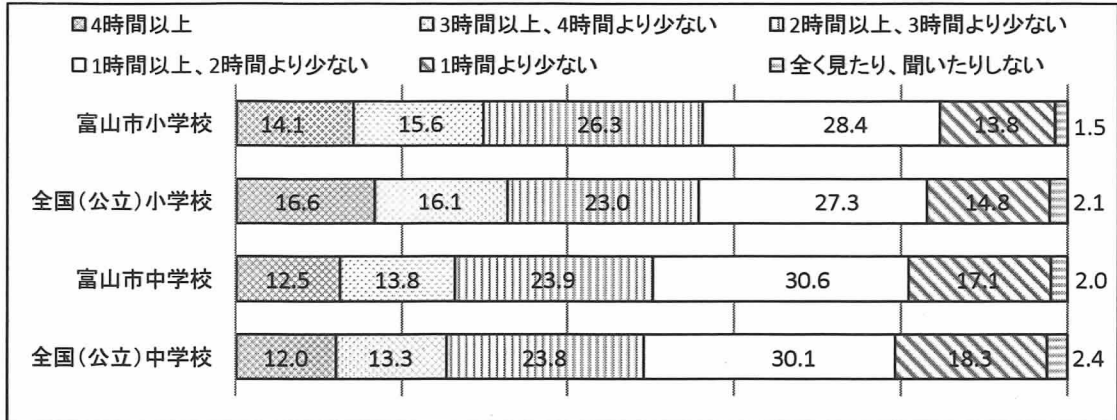
※ 「家の人と話をよくしている」「どちらかといえば、している」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

15 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



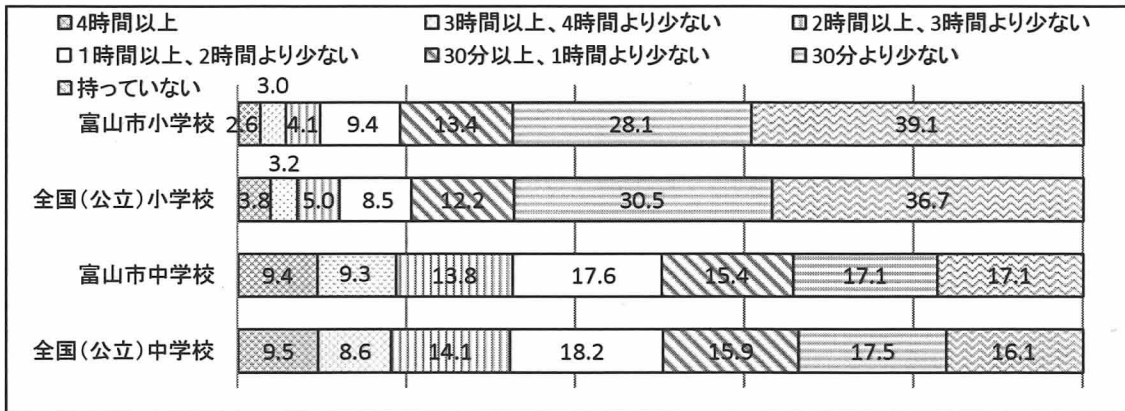
※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

16 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。



※ 「2時間より少ない」「全く見たり、聞いたりしない」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

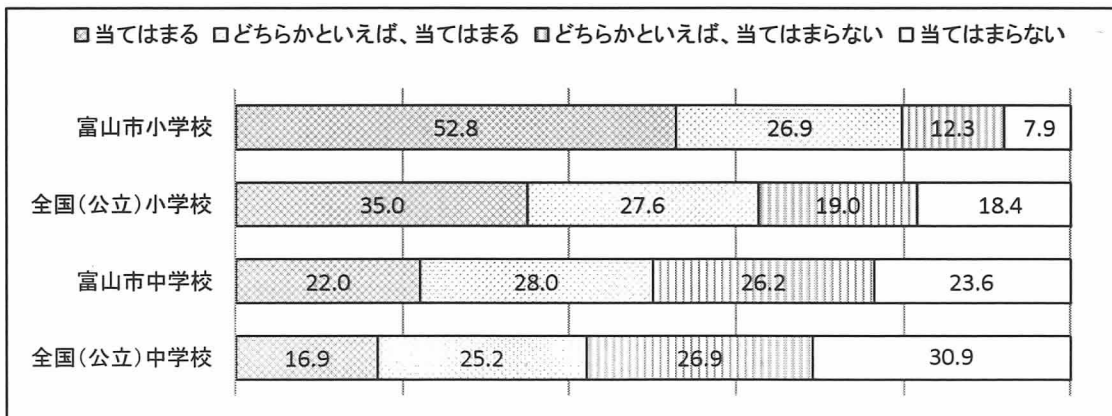
17 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



※ 「メールやインターネットをする時間が30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

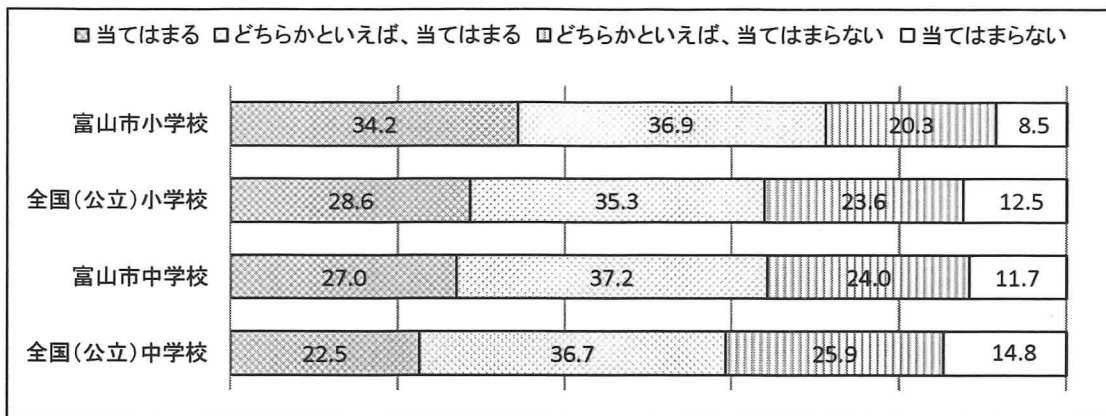
【地域や社会に対する興味・関心】

18 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」小学校児童の割合は全国よりかなり高く、中学校生徒の割合は高い。

19 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



※ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「どちらかといえば、関心がある」児童生徒の割合は、全国より高い。

# 児童生徒質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの

自尊感情等 全国比：平成29年度本市と全国を比較したもの H28比：本市平成29年度と平成28年度を比較したもの ◎は今年度より調査項目になった質問

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考察
1 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある	小	95.0%	+0.2	+0.6	2 「自分には、よいところがあると思う」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや高い。今後も児童生徒のよい点を認め、自尊感情を高めていくことが必要である。 3 「将来の夢や目標をもっている」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや低い。 <u>小学校と中学校が連携し、長期的な視点に立ったキャリア教育が必要である。</u>
	中	96.3%	+1.6	+1.5	
2 自分には、よいところがあると思う	小	79.2%	+1.3	+3.0	
	中	74.7%	+4.0	+3.4	
3 将来の夢や目標をもっている	小	84.8%	-1.1	+1.4	
	中	67.4%	-3.1	-3.8	

## 規範意識

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考察
◎4 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	小	49.1%	+0.4	-	4 「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。日ごろから、 <u>約束を守ることの大切さを考える機会をもうけ、規範意識を高めていくことが大切である。</u> 6 「いじめをいけないことだと思っている」児童生徒の割合は高く、全国とほぼ同じである。今後も家庭や学校での指導を継続し、いじめはいけないことであるという意識を高めることが重要である。
	中	48.5%	-2.1	-	
5 学校のきまり(規則)を守っている	小	92.0%	-0.6	+1.1	
	中	94.5%	-0.7	+0.5	
◎6 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小	95.3%	-0.5	-	
	中	93.6%	+0.8	-	

## 授業での活動

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28比	考察
7 授業のノートに目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていったと思う	小	88.0%	-0.7	+1.7	7、8 「授業のノートに目標とまとめを書いている」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合は高い。また、「学習内容の振り返りを行った」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。しかし、「学習内容の振り返りを行った」と答えている児童は約75%、生徒は約65%であり、決して高い割合ではない。まずは、 <u>まとめや振り返りの時間をしっかり確保していくことが大切である。</u> さらには、 <u>自己の成長や学びを児童生徒自身が自覚</u>
	中	86.3%	+6.0	+5.5	
8 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う	小	75.1%	-1.1	+0.5	
	中	65.7%	-0.4	+5.0	
9 自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う	小	79.6%	+1.7	+1.5	
	中	77.3%	+2.4	+2.2	



10	相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。	小	78.1%	±0.0	+2.8	できるよう、振り返りの方法を工夫するとともに、発達の段階に応じて、長期的な視点で振り返る力を育成していくことが必要である。
		中	75.7%	+2.2	+2.0	
11	学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、情報を集め・整理し発表する活動に取り組んだと思う	小	76.0%	+0.9	+1.1	
		中	73.9%	+2.6	+2.4	

### 家庭学習

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28 比	考 察
12	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上学習をしている	小	66.4%	+2.0	+3.8	12 「1時間以上勉強している」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや低い。課題の内容と量を吟味し、見直しをもって課題を与えるとともに、課題に対する指導や評価を、粘り強く続けることが大切である。また、家庭学習の習慣化を図るために、家庭学習の手引きを保護者向けに配付するなど、家庭との連携を積極的に行うことが重要である。
		中	65.3%	-4.3	+3.6	
13	普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書をしている	小	38.9%	+2.4	+1.1	
		中	30.7%	+1.5	-0.1	

### 家庭での生活

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28 比	考 察
14	家の人と学校での出来事について話をしている	小	78.0%	-0.1	-0.7	16 「テレビやDVDの視聴時間が2時間よりも少ない」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。家庭でのテレビやDVDの視聴時間、さらには、インターネットの利用時間が多くなることで、家庭での休養や学習時間の確保が難しくなることが懸念される。睡眠時間の確保等、健康の維持のためにも、視聴時間や時間帯、時間配分等を工夫することが必要である。
		中	75.1%	+0.8	-0.4	
15	毎日、同じ時刻に寝ている	小	79.3%	-0.5	-1.5	
		中	76.5%	+0.9	-0.6	
16	テレビやDVDなどの視聴は2時間よりも少ない	小	43.7%	-0.5	+1.6	
		中	49.7%	-1.1	-0.7	
17	普段（月～金曜日）、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている時間は1日当たり、30分より少ない	小	67.2%	±0.0	-0.9	17 「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている時間は1日当たり、30分より少ない」「持っていない」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。使用時間や使用法等について、児童会や生徒会、家族でルールづくりを行うなど、自ら節度をもって利用していく態度を養うことが必要である。
		中	34.2%	+0.6	-3.4	

### 地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H28 比	考 察
18	今住んでいる地域の行事に参加している	小	79.7%	+17.1%	-2.8	18、19 「地域の行事に参加している」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合も高い。また「地域や社会で起こっている問題等に関心がある」児童生徒の割合も高い。地域との繋がりが太いことがうかがわれる。今後も地域や社会に目が向くように働きかけ、地域の一員としての自覚を促していくことが大切である。
		中	50.0%	+7.9	-1.2	
19	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	小	71.1%	+7.2	-4.0	
		中	64.2%	+5.0	-6.4	